

発達心理学授業における生涯発達に対する 学生の思いについて

高 橋 均*

(2015年2月6日 受理)

Student's Impressions of Education on Life-Span Development in Developmental Psychology Classes

Hitoshi TAKAHASHI*

Student's impressions of education on life-span development in developmental psychology classes were analyzed. Results indicated that students were interested and had a positive impression of education on life-span development. In conclusion, it is important for teachers to improve the teaching of developmental psychology from the perspective of life-span development.

Keywords: Life-span development 生涯発達, Developmental psychology 発達心理学

1. はじめに

本稿の目的は、発達心理学の授業における生涯発達に対する学生の思いについて分析し、考察することである。

心理学の分野では、発達にともなう変化を青年期や成人期で終わりとする考え方から、一生涯成達は続くとする考えへと変化している(二宮, 2012)。そして発達心理学は、生涯発達という観点を導入したことで大きく変化し、生涯発達心理学は成人期以降を射程に入れるのみならず、発達概念そのものの再構成を促したとされている(若本, 2013)。保育の心理学にかかわる書籍(小田・丹羽, 2012等)においても、生涯発達について扱われるなど、生涯発達という観点の重要性は高まっている。

しかしながら、学生は発達心理学における生涯発達という観点についてどのような思いを抱いているのだろうか。大学の授業や書籍を通して生涯発達という観点の重要性を認識していると考えられるが、教員や保育士を養成する大学の学生は小学校、幼稚園・保育所などめざす進路でかかわるのが児童や乳幼児であったり、学生自身が成人期以降の経験のない者がほとんどであったりする。そのような中で、学生が発達心理学における生涯発達という観点についてどのような思いを抱いているのか分析することは、心理学の授業を行っていく上で重要であると考えられる。

そこで本稿では、発達心理学における生涯発達に対する学生の思いについて分析し、考察する。その際、発達心理学の授業の受講生を対象に検討する。

* 広島女学院大学人間生活学部幼児教育心理学科准教授

2. 方法

発達心理学の授業

2014年度後期に、二宮・大野木・宮沢（編）（2012）に基づき、生涯発達心理学の観点から、生涯発達心理学の基礎、発達研究の方法、胎児期・乳児期、幼児期、児童期、青年期前期・中期・後期、成人期前期・中期・後期について学ぶ授業を行った。

調査参加者

小学校教諭・幼稚園教諭・保育士を養成する大学の3年生・4年生21名（女性）

調査内容

2015年1月、発達心理学の15回目の授業後に、生涯発達について感想の記述を依頼した。問いは、生涯発達について学んで思ったこと、さらに学んでみたいことであった。

3. 結果と考察

出現頻度と関連テキスト数

記述の分析にあたり、内田（2010）を参考にした。まず、記述をカテゴリー化するため、トレンドサーチ2008（社会情報サービス）を用いて分析した。その結果、119のキーワードが明らかになった。

表1は、記述に含まれていたキーワードの出現頻度2以上または関連テキスト数2以上のものを表示したものである。表1から明らかなように、出現頻度、関連テキスト数が多いのは、「発達」、「学ぶ」、「思う」、「生涯」、「知る」などであった。

「知る」「詳しい」は、詳しく知りたいという学生の思いを表しており、学生が生涯発達に興味・関心を持っていることを表す言葉である。また、「面白い」も学生が生涯発達に肯定的な思いを抱いていることを表す言葉である。

さらに、「成人期」「乳幼児期」は、数は少ないものの重要な言葉と思われる。この言葉は、幼稚園教諭・保育士をめざしている学生はこれまで「乳幼児期」を学んだため自分の将来にかかわる「成人期」をさらに知りたい、生涯発達を学んで「乳幼児期」の大切さが分かったという思いを表している。このことから、生涯発達の観点から学ぶことで、学生は複数の発達段階に対する興味・関心や理解が促されたと考えられる。

「死ぬ」「死」は、成人期後期の発達課題に関する内容を表している。この言葉を記述している者には「生まれる」の言葉を記述している者もいる。生涯発達を学んだことによって、乳児期から成人期後期までという全体的な捉え方をしていると思われる。

キーワード同士のクロス集計

表2、表3、表4は、キーワード同士のクロス集計表である。

これらの表から明らかなように、関連テキスト数や出現頻度の多いキーワードは、他のキーワードとともに記述されていることが分かる。関連テキスト数や出現頻度の少ないキーワードは、他のキーワードとともに記述されることが少なく、クロス集計上で0になっているものもあった。関連テキスト数や出現頻度の多いキーワードには、「発達」、「学ぶ」、「思う」、「生涯」など記述において共通して使用されると思われるキーワードが含まれている。そのため、これらのキーワードほどの数がなくとも、複数あがっているキーワードは重要な意味を持っていると思われる。

表1 出現頻度2以上または関連テキスト数2以上のキーワード

キーワード	出現頻度	関連テキスト数
発達	30	19
学ぶ	17	16
思う	17	13
生涯	9	8
知る	8	6
人	7	7
言う	7	6
出来る	5	5
なる	5	4
時期	5	4
かんがえる	5	4
詳しい	4	4
ある	4	4
成長	4	4
人間	3	3
成人期	3	3
授業	3	3
過程	3	3
変化	3	3
様々なこと	3	3
乳幼児期	3	2
課題	3	2
比べる	3	2
理解	2	2
死ぬ	2	2
生まれる	2	2
中	2	2
よい	2	2
する	2	2
なく	2	2
ともなう	2	2
あらためる	2	2
面白い	2	2
特徴	2	1
死	2	1

キーワード間の関係

関連テキスト数3以上のキーワードを含んでいれば1, 含んでいなければ0とするデータについて数量化Ⅲ類による分析を行った。その際、エクセル統計2012（社会情報サービス）を用いた。

その結果、第1軸の固有値は0.41, 第2軸の固有値は0.31であった。また、カテゴリースコアを表5に、変数の布置図を図1に示す。

図1, 表5から明らかなように、「乳幼児期」と「授業」が近い。これは乳幼児期の発達は授業で

表2 キーワード同士のクロス集計表

	発達	学ぶ	思う	生涯	知る	言う	人	出来る	なる	時期	かんがえる
発達	19	14	11	8	5	6	7	5	3	4	3
学ぶ	14	16	10	7	4	4	4	3	4	4	3
思う	11	10	13	4	5	5	5	2	4	2	2
生涯	8	7	4	8	2	3	3	1	3	3	2
知る	5	4	5	2	6	2	3	1	3	1	1
言う	6	4	5	3	2	6	4	1	1	1	1
人	7	4	5	3	3	4	7	2	2	3	2
出来る	5	3	2	1	1	1	2	5	0	1	0
なる	3	4	4	3	3	1	2	0	4	2	1
時期	4	4	2	3	1	1	3	1	2	4	2
かんがえる	3	3	2	2	1	1	2	0	1	2	4
詳しい	4	3	3	0	1	1	1	1	0	1	0
ある	4	2	1	3	1	2	2	0	0	0	1
成長	4	3	4	0	2	3	2	1	0	0	0
人間	3	2	1	0	0	0	0	1	0	0	0
成人期	3	2	2	0	0	1	1	0	0	0	0
授業	3	1	1	1	1	0	1	0	0	0	1
過程	3	3	2	1	0	1	1	2	0	0	0
変化	3	3	1	3	1	1	0	0	1	1	1
乳幼児期	2	1	2	1	1	0	1	0	1	1	0
様々なこと	2	2	3	1	0	1	1	0	0	0	1
課題	2	2	2	2	1	1	1	0	2	1	1
比べる	2	2	2	1	1	0	0	0	1	0	0
理解	2	2	2	0	0	0	0	1	0	0	0
死ぬ	2	2	1	1	0	0	0	0	0	1	1
生まれる	2	2	1	1	0	0	0	0	0	1	1
中	2	2	1	1	0	0	0	0	0	1	1
よい	2	0	2	1	0	1	1	0	0	0	0
する	2	0	1	0	1	1	1	2	0	0	0
なく	1	2	2	0	1	1	1	0	1	0	0
ともなう	2	2	1	2	1	0	0	0	1	1	1
あらためる	2	1	1	1	2	0	2	0	1	1	1
面白い	2	2	2	2	1	1	2	0	2	2	1
特徴	1	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0
死	0	1	1	0	1	0	0	0	1	0	0

表3 キーワード同士のクロス集計表（続き1）

	詳しい	ある	成長	人間	成人期	授業	過程	変化	乳幼児期	様々なこと	課題
発達	4	4	4	3	3	3	3	3	2	2	2
学ぶ	3	2	3	2	2	1	3	3	1	2	2
思う	3	1	4	1	2	1	2	1	2	3	2
生涯	0	3	0	0	0	1	1	3	1	1	2
知る	1	1	2	0	0	1	0	1	1	0	1
言う	1	2	3	0	1	0	1	1	0	1	1
人	1	2	2	0	1	1	1	0	1	1	1
出来る	1	0	1	1	0	0	2	0	0	0	0
なる	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2
時期	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1
かんがえる	0	1	0	0	0	1	0	1	0	1	1
詳しい	4	0	1	0	1	1	0	0	1	0	0
ある	0	4	0	0	0	2	0	1	0	1	0
成長	1	0	4	1	1	0	1	0	0	1	0
人間	0	0	1	3	1	0	0	0	0	1	0
成人期	1	0	1	1	3	1	1	0	1	0	0
授業	1	2	0	0	1	3	0	0	1	0	0
過程	0	0	1	0	1	0	3	0	0	0	0
変化	0	1	0	0	0	0	0	3	0	0	1
乳幼児期	1	0	0	0	1	1	0	0	2	0	0
様々なこと	0	1	1	1	0	0	0	0	0	3	0
課題	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2
比べる	0	0	1	1	0	0	0	1	0	1	1
理解	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
死ぬ	0	0	1	1	0	0	0	1	0	1	0
生まれる	0	0	1	1	0	0	0	1	0	1	0
中	0	0	1	1	0	0	0	1	0	1	0
よい	1	1	0	0	1	1	0	0	1	1	0
する	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0
なく	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0
ともなう	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1
あらためる	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0
面白い	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
特徴	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
死	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

発達心理学授業における生涯発達に対する学生の思いについて

表4 キーワード同士のクロス集計表（続き2）

	比べる	理解	死ぬ	生まれる	中	よい	する	なく	ともなう	あらためる	面白い	特徴	死
発達	2	2	2	2	2	2	2	1	2	2	2	1	0
学ぶ	2	2	2	2	2	0	0	2	2	1	2	1	1
思う	2	2	1	1	1	2	1	2	1	1	2	1	1
生涯	1	0	1	1	1	1	0	0	2	1	2	0	0
知る	1	0	0	0	0	0	1	1	1	2	1	0	1
言う	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	1	0	0
人	0	0	0	0	0	1	1	1	0	2	2	0	0
出来る	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	0
なる	1	0	0	0	0	0	0	1	1	1	2	0	1
時期	0	0	1	1	1	0	0	0	1	1	2	0	0
かんがえる	0	0	1	1	1	0	0	0	1	1	1	0	0
詳しい	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
ある	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0
成長	1	0	1	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0
人間	1	0	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0
成人期	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0
授業	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0
過程	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0
変化	1	0	1	1	1	0	0	0	2	0	0	0	0
乳幼児期	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0
様々なこと	1	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0
課題	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0
比べる	2	0	1	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0
理解	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
死ぬ	1	0	2	2	2	0	0	0	1	0	0	0	0
生まれる	1	0	2	2	2	0	0	0	1	0	0	0	0
中	1	0	2	2	2	0	0	0	1	0	0	0	0
よい	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
する	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
なく	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1
ともなう	1	0	1	1	1	0	0	0	2	0	0	0	0
あらためる	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0
面白い	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0
特徴	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
死	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1

表5 カテゴリースコア

カテゴリー	第1軸	第2軸
発達	-0.31	-0.06
学ぶ	-0.06	0.34
思う	-0.11	-0.09
生涯	1.07	0.63
知る	0.71	-0.20
言う	0.21	0.41
人	0.34	-0.10
出来る	-1.76	1.33
なる	1.24	0.38
時期	0.93	0.44
かんがえる	1.43	0.53
詳しい	-0.64	-2.06
ある	1.46	-0.50
成長	-1.16	0.24
人間	-3.28	0.60
成人期	-1.83	-2.52
授業	0.84	-3.25
過程	-1.47	1.27
変化	1.70	1.28
乳幼児期	0.15	-3.39
様々なこと	-0.19	1.07

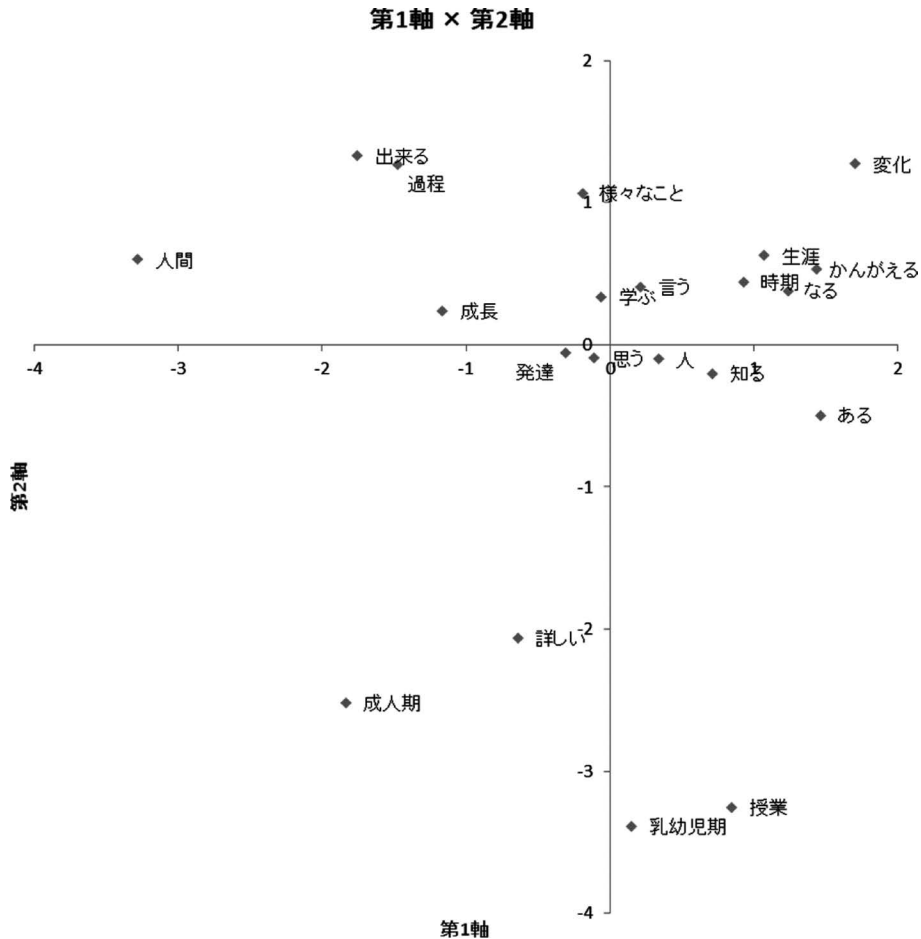


図1 変数の布置図

学ぶことが多いことを表していると考えられる。「成人期」と「詳しい」の関係については、学生自身の将来にかかわる「成人期」を詳しく知りたいことを表していると考えられる。

また、「生涯」と「時期」が近い。学生は生涯発達の観点の重要性を学ぶとともに、発達を時期ごとに捉える面もあることを表していると考えられる。

さらに、「成長」と「発達」の関係については、類似した言葉のため、両方用いている場合があることを表していると考えられる。

その他、全体的な結果をもとにすると、第1軸は、生涯にかかわること—発達・成長にかかわることを表す軸と考えられる。第2軸は、抽象的なこと—具体的なことを表していると考えられる。

4. まとめ

先述したように、本稿では発達心理学授業における生涯発達に対する学生の思いを分析した。その結果、学生は発達心理学授業における生涯発達について興味・関心や肯定的な思いを抱いていることが分かった。また、学生が将来の進路でかかわるであろう「乳幼児期」の子どもだけでなく、学

生自身の将来にかかわる「成人期」などについて詳しく知りたいという思いを持っていることが分かった。

このような学生の思いを汲み取り，生涯発達の観点を大切にしながら授業を工夫していくことが望まれると思われる。そうすることが，学生の子ども理解，学生のさらなる発達につながると思われる。

謝辞

調査にご協力いただいた発達心理学の受講生の皆様に感謝申し上げます。

引用文献

- 二宮克美（2012）．生涯発達心理学の基礎 二宮克美・大野木裕明・宮沢秀次（編）（2012）．ガイドライン生涯発達心理学 ナカニシヤ出版 pp. 1-11.
- 二宮克美・大野木裕明・宮沢秀次（編）（2012）．ガイドライン生涯発達心理学 ナカニシヤ出版.
- 小田 豊（監）丹羽さかの（編著）（2012）．保育の心理学Ⅰ 光生館.
- 内田 治（2010）．数量化理論とテキストマイニング 日科技連出版社.
- 若本純子（2013）．成人・老人を対象とする発達研究の動向 教育心理学年報，52，24-33.